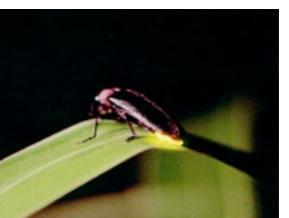


初夏の闇夜を彩る幻想的な光の舞。

かつて専門家から「日本一のホタルの里」と称された菊池市。神秘的なホタルの姿を目に焼き付けようと、多くの人が鑑賞に集まります。

菊池とホタル。歩んできた道のりを紐解いてみました。



# ホタルが灯すまちの光



1\_旭志の合志川で乱舞するゲンジボタル 2\_旭志の山中ではヒメボタルも姿を現します 3\_遊歩道がある渡瀬川沿いはお勧めの鑑賞コース 4\_4月になるとホタルの幼虫が上陸します

## ホタルの幼虫の上陸

雨の日の夜、ホタルの幼虫は光をともしながら川から陸に登ります。土の中でサナギになり、脱皮して成虫になります。

## 高柳ホタルを育てる会



稻葉カツ子さん(高柳)



稻葉辰馬さん(高柳)



稻葉一義さん(高柳)

ホタルの発生地として知られる旭志の高柳地区。30年以上にわたりホタルの保全活動や研究を続ける稻葉辰馬さんは「子どもの頃からホタルは身近な存在。珍しいなんて感

「山が真っ白に光っていたんだ」

じたことは無かったよ」と話

します。転機は昭和60年。夏

のある夜、辰馬さんは明らかに異変に気付きます。「山が真っ白に光りながら動いていた。近づいてみると、見たこともない数のホタルが乱舞していくね。これはすごいと思いました。辰馬さんによると、大量発

生の原因は昭和56年に実施した河川の整備。川の流れや工事の環境が変わったことで、生態系に影響をもたらしたのだろうと説明します。翌年以降は昭和60年ほどの大量発生は無かつたものの、多くのホタルが乱舞。噂を聞きつけた研究者や観光客も訪れるようになり、旭志はホタルの名所として知られるようになりました。

次のページへ続く

近年、開発や汚染により、全国的にホタルの棲む場所は減少しています。菊池市は、平成2年に制定された「熊本ホタルの里100選」で市内から11カ所が選出（合併前の七城町、旭志村、泗水町を含む）。ホタルの名所として県内でも名をはせていました。しかし、近年はホタルが発生しなくなった場所もあり、保護や環境保全の必要性が叫ばれています。そこで市は平成27年、ホタルの舞うふるさとづくり事業として「日本一のホタル王国プロジェクト」を始動。地域活動や小学校の

活化にも一役買っています。こうして菊池は「ホタル王国」として認知され、たくさんの観光客が美しい光の舞を一目見ようと足を運ぶようになりました。実は昭和末期まで、菊池のホタルは特に注目される存在ではありませんでした。その背景には、ホタルと共に生きる人たちの地道な活動や努力がありました。ホタルフェスタを開催し、グルメやステージイベント、ホタルの鑑賞会を開くなど、地域

## ホタル王国・菊池

授業にホタル保全活動の取り組みを導入するなど、ホタルと共生できるまちづくりを進めています。毎年初夏にはホタルフェスタを開催し、グルメやステージイベント、ホタルの鑑賞会を開くなど、地域



2年前のホタルフェスタ。たくさんの来場者でぎわいました

## 突然ホタルが消えた

ところが、昭和63年の夏に事態は一変。ぱつたりとホタルがいなくなってしまったのです。異常とも言えるホタルの増加は、エサになるカワニナの減少を招いていました。

「見に来た人から『ホタルがない』って言われてね。ショックでした。このままではダメだ。環境を守らなければと思い、ホタルについて勉強しました」。辰馬さんは、妻の力とともに保全活動に着手。ホタルのエサが川に増えるよ

う、田んぼからカワニナを探取して放流し続けました。辰馬さんたちの姿に一義さんら地域の人も賛同。継続的な取り組みは実を結び、高柳地区は再びホタルが舞うようになりました。辰馬さんの熱心な活動は噂を呼び、全国からホタルの研究者が自宅を訪ねるほどに。専門誌に研究成果を発表するほど、ホタルに熱を注ぎました。

## 小学校でホタルの学習

ホタルが住む環境保全の重要性を理解してもらう目的で、市内の小学校ではホタルの学習や育成に取り組んでいます。旭志小は25年前から、旧旭志村以外の小学校も4年前に始まりました。辰馬さんと一緒にさんが所属する「高柳ホタルを育てる会」が授業を続けています。

各小学校ではホタルの生態や生育環境について学ぶほか、実際にホタルを飼育して卵のふ化に挑戦。幼虫を川に放流し、継続的に観察を続けます。戸崎小学校は、ホタルの保護活動を報告する環境省主催の「こどもホタレンジャー」で、平成27年度に全国2位相当のベネッセ賞を受賞。幼虫を放流した井手の生き物調査や水質検査を行い、生き物が住みやすい環境を考えたことが評価されました。



旭志小学校5年  
岡島香羽さん(小原)  
ポスターになってうれしいです  
旭志に来た人にきれいなホタルと牛を見てほしいと思って描きました。

震災を乗り越えて——

## ホタルフェスタ in 旭志 2年ぶりに開催

※見頃より早めの開催のため、当日のホタル観賞会は行いません。

※当日はイベント会場からのシャトルバスはありません。

近年、ホタルフェスタは何度も中止に追い込まれました。平成22年は宮崎県で発生した口蹄疫の影響で、平成26年には豚流行性下痢(PED)の流行を防ぐために。そして昨年は熊本地震。それだけに、開催にかける二人の思いもひとしおです。「フェス

タが中止になつても、ホタルはいつもと変わらず飛んでい



菊池市商工会  
青年部旭志支部長  
水上裕一郎さん  
(小川)

菊池市商工会  
青年部部長  
水上兼司郎さん  
(小川)



道の駅のスタンプ  
全国の道の駅には地域色豊かなスタンプが配備。ドライブがてら集めてみては?



道路脇の柵  
溜池「湯舟の堤」近くの柵。斜めから見るとホタルのイラストが見えます。



旭志郵便局の風景印  
局オリジナルの消印(風景印)。郵送の際に窓口でお願いすると押してもらえます。



ホタルの街灯  
思わずドキッとする! 9匹のホタルをモチーフにした街灯はインパクト大。

旭志で発見!  
こんなところに  
ホタルが!?



旭志のお米はホタルの袋!

## 守り続けた地域の宝を未来に残したい——

ホタルを温かい心で見守る人たち。自然と向き合う小学生。地域をあげた活動が実を結び始めています。



1\_ホタルの幼虫を放流する旭志小児童  
2\_戸崎小の活動研究報告  
3.4\_高柳ホタルを育てる会会員の指導を受けながら環境を守ることの大さを学んでいます

あなたは大丈夫?  
**ホタル観賞のマナー**

ごみは持ち帰りましょう  
ホタルは生きる環境を守るために、ごみは必ず持ち帰ってください。  
撮影は周りに配慮しましょう  
ホタルは明るい場所が苦手。周辺に住む人や鑑賞している人の迷惑になるので、フラッシュ撮影をご遠慮ください。  
騒ぎすぎるのは控えましょう  
周辺に住む人や鑑賞している人の迷惑になるので、騒ぐのは控えてください。  
時間を守りましょう  
ホタルは夜8時頃に多く飛び、9時を過ぎると寝ます。9時以降の鑑賞は控えましょう。  
交通規制に従いましょう  
鑑賞期間中は混雑が予想されます。交通整理係の指示に従ってください。  
鑑賞に適した服装で  
夜間は足元が暗く、転倒などの危険もあります。歩きやしゃがみの時に靴を選びましょう。